

“エイジレス社会”海外福祉事情・調査研修に参加して  
～福祉先進国デンマーク・フィンランドに  
おける高齢者ケアの取組みと現状～

丹 寿 荘

グループホーム村いちばんの元気者  
支援員 佐藤美穂

## 1 はじめに

このたび、当事業団の平成27年度海外派遣研修実施要領に基づき、財団法人大阪府地域福祉推進財団が主催する“エイジレス社会”海外福祉事情・調査研修に参加し、福祉先進国における高齢者ケアの取組みと現状について学んだのでその内容について報告する。

- ① 研修国 デンマーク・フィンランド
- ② 期 間 平成27年11月8日（日）～14日（土）
- ③ 内 容 高齢者施設への視察、高齢者福祉政策・制度講義

## 2 海外研修に関する報告

### （1）デンマーク

#### ①ネストヴェ市

ネストヴェ市・・・人口8万2千人。中心地から10分ほどで海や森に行くことができ、アウトドアに力を入れている。デンマーク王国の高齢化率は18.2%。ネストヴェ市では高齢者分野に対して予算の9.2%をあてている。

#### デンマークの福祉の理念

- ・ 普遍的なものであること
- ・ 財源は税金である
- ・ 貧富の差にかかわらず、必要な人がサービスを受けられる
- ・ 自助援助
- ・ 自由選択の原則
- ・ 地方分権（国が法《枠組み》を作るが、枠の中でどのようなサービスをするかは自治体に任されている）

- ・ 市には高齢者ケアセンターが4か所設置されている。それぞれのエリアに分かれてサービスを提供している。4エリア合わせて1,700名のスタッフが従事している。
- ・ 民間のサービス事業者も一部存在する。在宅でサービスを受ける市民に対して、公的なものと同じようなサービスを提供する。

#### ②ケア付き高齢者住宅 シンフォニー

- ・ 1部屋当たりの面積38㎡。各居室シャワールーム・トイレ付。12戸×4セクション。この48戸で1棟の建物となり、これが2棟ある。月々の費用は家賃約12万円、食費約6万円。住宅であるため、玄関には鍵がついている。鍵は入居者に1個ずつ渡される。玄関には名前の記入されたインターホンがある。自分で鍵を開けられない入居者に対しては、職員が代わりに開錠する。
- ・ 利用者48名に対して日勤帯職員は8名。食事の準備をするためのス

タッフもいる。入所者は、認知症と診断されて入所する。入所前には、入所判定委員会を開いて検討する。

- ・各居室に備え付けてあるもの・・・ベッド、収納棚（２）、洗濯機（小）、リフター用レール。
- ・共有の「スヌーズル」と呼ばれる部屋がある。

### ③ホンデルップガード ナーシングセンター

- ・入所定員５８名。６つのセクションに分かれており、うち４つは通常の介護棟。２つは認知症対応棟。月々の費用は約１１万円。
- ・地下に厨房があり、そこで食事の準備をしている。また各ユニットでパンを焼くなどしており、それを提供することもある。各ユニットに食事の配膳・清掃・洗濯など家事援助のスタッフや、運動専門のスタッフも配置されている。
- ・週５日、夕食後（１８：３０～２１：００）に、お茶会やダンスなどの催しを行う。このことに対して特別なスタッフは配置しておらず、その日の勤務者の中で行っている。
- ・施設内にアクティビティセンターが３つある。
  - トレーニングルーム ●脳トレルーム ●喫茶ルーム

## （２）フィンランド

### ①フィンランド社会保険庁（ケラ）

- ・フィンランド 面積３３万８千㎢  
人口５５０万人

- ・１９３７年創設。６５歳が年金受給の年だったが、当時の平均寿命は男性５３歳、女性５９歳と短く、年金を受給する人がほとんどいなかった。現在は６３歳～６８歳からで選択することができる。
- ・フィンランドの自治体は約３００。各自治体でサービスを提供するが、小さなところは他と合同でサービスを提供していることもある。
- ・ケラは国会の下に位置づけられている。省庁などではない。国の「保障」に関する分野を請け負っている。従業員数６，０００名、国内に１８６支部設置。ケラの事務所は人口密度に比例して設置されており、南にいくほど多くなっている。

### ◎ケラの取り扱い一覧

- 国民年金 ●障害年金 ●疾病に対する保険 ●リハビリテーションの保障 ●失業保険 ●家族に対する保障 ●学生に対する保障 ●住宅補助 ●徴兵期間の収入保障

### ◎ケラのすること

- 国民への情報提供 ●研究・開発 ●統計

### ②プオティラ老人施設

- ・開設５０年を迎えた。財団が運営しており、ヘルシンキがサービスを買うという形になっている。現在入所者１３４名。全員何らかの形で認知症状が出ている。一番若い入所者は６４歳。最年長は１０４歳。
- ・入所に際して収入やステータスなどは関係なく、症状に応じて入所で

きる。

- ・月にかかる費用は約56万円と高額で、払える金額ではない。年金収入の80%を支払い、払えない分はケラや市が支払う。
- ・おやつを含めて1日5食提供している。夜食から朝食までは11時間程空いており、それ以上空く時はフルーツなどを提供している。いつ何を食べたかは都度記録に残している。
- ・できるだけ行事をたくさん行うようにしている。冬でも外出を行う。また中庭でもよいので、1日1回は外に出るようにしている。利用者を寝たきりにするのではなく、少しの間でもベッドから離れる時間を作っている。
- ・薬代は自己負担。約8万円を超えた分はケラが支払ってくれるが、その8万円を払えない場合は生活保護を受けることもある。2011年に服薬の内容を見直し、最低限必要なもののみ処方している。眠剤は使用していない。それにより転倒事故も減少した。

### 3 振り返り

デンマーク及びフィンランドで高齢者福祉の実情を学び、サービス利用者の経済的負担や、介護に対する考え方が日本よりも随分進んでいるという印象を受けた。何よりも全居室に移動リフト用のレールが設置されているという点が大きく異なっており、一番驚いた部分である。国として、離職防止に取り組み、このような形をとったという話を聞いた。

日本は介護者が無理をしてでも自分で介護を行い、機械に頼るということを良しとしない傾向が、まだまだ根強くある。人の手で介護することにより「あたたかさ」を感じてもらうこともできるが、そのことで体を壊し、結果退職というケースもあり、介護人材についての深刻な問題とも言える。日本も国・自治体レベルでもっと真剣に取り組んでいく必要があると感じた。

今回の研修で、どこまでも利用者一人ひとりの状況に合わせて支援を行っているという内容を聞くことができた。施設で暮らすことになっても、できる限り自分の家にいた時と同じような環境を準備する、薬に頼るのではなく外の空気に触れたり職員との関わりによって1日を穏やかに過ごすなど、人と人とが一緒に過ごしているということの意味を学んだ。利用者のペースに合わせて支援をする、これはどの施設でも言われていることだと思う。私たちが常々この言葉を口にし、そうしようと話し合っている。しかしそれは、本当に人と向き合う気持ちがないと出来ないことだと思う。なんとなく仕事をしているだけではとても出来ない。なんのためにこの仕事をしているのか、自分たちは何をしなければいけないのか等、一人ひとりがしっかりと考えていく必要があると感じた。

今回このような貴重な機会を与えていただいたことに感謝しています。

今後、この経験を活かし、よりよい支援を行っていきけるよう取り組んでいきたいと思っております。